

東日本大震災後の コミュニティアーカイブ活動

イギリスの例と宮城県仙台市荒浜地区の活動を一例とした研究報告



東北大学工学科 都市・建築学専攻
災害科学国際研究所国際防災戦略室
村尾研究室 博士課程後期
北村美和子

目次

- 背景
- 本研究でのコミュニティの定義
- 本研究におけるコミュニティアーカイブの定義
- イギリスのコミュニティアーカイブの例
- 調査方法
- 東日本大震災後の荒浜地区のコミュニティアーカイブの事例
- 東日本大震災アーカイブ宮城とコミュニティアーカイブの有機的連携
- まとめ

背景

- 東日本大震災後復興政策として災害デジタルアーカイブの構築が始められた
- 国や地方自治体による災害デジタルアーカイブには被災写真・津波のシュミレーション・音声データ・動画・災害に関する統計情報・東日本大震災の検証報告書等の多種多様なデジタルビックデータが収集された
- このようなトップダウン式で収集されたアーカイブとほぼ同時期に小規模な被災者住民によるアーカイブの構築が点在している

本研究での コミュニティ の定義

- 地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭りに関わり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会、あるいはそのような住民の集団
- コミュニティという総称には、市町村などの地方自治体、地域を越えて連携した非営利組織などの集団、インターネット上で連絡を取り合う集団なども含まれる。

コミュニティ アーカイブ の定義

- 特定のグループや地方の歴史を記録した文書、写真、口頭でのヒストリーなどの資料を収集、保存、作成することによって、より包括的で多様な地方資源の保存に貴重な貢献をするもの。
- コミュニティのアーカイブと関連プロジェクトは、活動に参加する人、コレクター、ボランティア、ユーザー、訪問者の生活を豊かにする記録であること。
- コミュニティのアーカイブは、学習と有用なスキルの獲得を支援し、異なる年齢や背景の人々を集めて社会参加を促し、コミュニティのアイデンティティを向上させ、異文化間の相互理解を促進するもの。

イギリスの コミュニティー アーカイブ



- コミュニティーアーカイブの定義上の特徴は物理的なものではない
- 情報収集された場所や、収集の課程のソースコミュニティのメンバーが、自身の言葉で自らの歴史を収集し、記録したもの
- コミュニティーアーカイブの定義は、コミュニティによって採用されたものに基づいている
- コミュニティグループによって所有、開発、管理されているもの

イギリスの コミュニティ アーカイブ

- コミュニティアーカイブス & ヘリテージ教会ではコミュニティアーカイブのガイドラインを公開し、コミュニティアーカイブの基本的概念の啓蒙を促している
- 現在、英国ではおよそ3,000 から5,000ものコミュニティアーカイブが存在している
- これらのグループの熱意は、英国にとって素晴らしい資産に値している

イギリスの コミュニティ アーカイブ

- しかし、グループは個々に異なる方法で資料を収集している
- プロフェッショナルによるカタログ作成ガイドラインは一般のコミュニティアーカイブの担当者にとっては困難であるかもしれない
- 現実的でユーザーフレンドリーな目録作成のための最小限の標準についてのガイドランスを提供している

イギリスの コミュニティ アーカイブの例



- Newquay Heritage Archive & Museumは、多くのボランティアによって運営されている
- 学生、家族の歴史家、作家、プログラマー、歴史的で文化的な地区に興味のある訪問者や地元の人々から支持されている
- 公的資金を全く受けず、会員、スポンサー、訪問者の寄付等によって運営されている

イギリスの コミュニティ アーカイブの例



- プリマスのLGBTアーカイブは、都市のLGBTコミュニティの歴史を具体的に描写するために、「私たちの過去のプライド」プロジェクトの結果として作成された
- 2012年4月28日から6月30日まで、展示会を行い、コミュニティアーカイブを作成および維持するボランティア団体の慈善団体組織を作ることができた
- このアーカイブの目的は、同性愛が犯罪や精神障害とみなされていた過去から、寛容な社会となった現代への社会の変化を記録すること

荒浜地区の 大日本大震災 の被害状況



震災遺構となった 荒浜小学校



沿岸部である荒浜地区は災害危険区域に指定され、安全対策のため、住民は元の居住地域に戻ることが出来なくなった

出所 河北新報

調査方法

- 東日本大震災後、荒浜地区で地域コミュニティ活動を行なっている団体、①^{3.11}オモイデアーカイブと②海辺の図書館 の今までの活動
- これらの団体代表へのインタビュー調査
- 宮城県が公開している災害デジタルアーカイブ「東日本大震災アーカイブ宮城」と、荒浜地区のコミュニティアーカイブとの連携状態についての現状把握

荒浜の地域コミュニティアーカイブ事例

3.11オモイデアーカイブ

- NPO法人「20世紀アーカイブ仙台」 2009年より宮城県仙台市の地域の伝統や文化の記録をアーカイブしている（2018年現在およそ5万点のコンテンツ数）
- 3.11オモイデアーカイブは、2016年に「20世紀アーカイブ仙台」から独立
- 東日本大震災後の主な活動として「3月12日始まりのご飯 ―いつ、どこで、何食べた？―」
- 3.11オモイデツアー
- 定点観測写真撮影

3.11 オモイデ ツアー

- 荒浜沿岸部で東日本大震災後継続的に実施されている、日本各地から訪れた荒浜地区へのツアーの参加者と元住人が一体となって海岸清掃・もちつきなどのイベントを行う
- かつての荒浜の日常生活について元住民に話を聞いたり思い出の場所を一緒に訪れるなど被災住民参加型の被災地ツアー

3.11 オモイデ ツアー

- ほかの被災地ツアーのような被災時の悲惨な状況について語りべから話を聞くというような一方向のツアーではなく対話型の被災地ツアーである
- クラウドファンディングも行なっている

海水浴場行きバスを再び！「3.11オモイデツアー」の継続へ

📍 仙台 📍 社会にいいこと 📍 東日本大震災 📍 被災地



佐藤 正実 (3.11オモイデアーカイブ)

支援総額	2,085,000円
🔥 目標金額	1,500,000円
支援者数	171人
残り日数	終了しました

購入型 All or Nothing

プロジェクトが成立しました！
このプロジェクトは
2017年5月17日(水)23:00 に成立しました。

3.11 オモイデ
アーカイブ



- 荒浜地区の沿岸部の被災地住民が自ら定点観測などの写真撮影活動をはじめた
- 昔の写真をスクリーンに投影し元住民たちや撮影者の言葉で皆で写真にキャプションを付ける作業を行なった

これらの写真やキャプションがまとめられ、
「^{3.11}オモイデアーカイブ」というタイトルの写真集（非売品）を作成した。



2011.11.1 佐藤正実 撮影



2013.6.2 佐藤正実 撮影



2014.12.6 佐藤正実 撮影

仙台市宮城野区福田町
4月7日の地震で実家が全壊してしまったため、11月から父親は仮設住宅での生活が始まった。テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機などは新調され、家から持ってきたのは小さなテーブルとイス、タンス、母親の位牌程度。この後仮設住宅は防寒対策として断熱材や二重玄関などの工事がなされ、2014年2月までの3年半をこの部屋で暮らした。

- ・ 発行人である佐藤正実氏の父親の写真記録である

この写真のキャプション

4月7日の地震で実家が全壊してしまったため11月から父親は仮設住宅での生活が始まった。テレビ、エアコン、冷蔵庫洗濯機などは新調され、家から持ってきたのは小さなテーブルとイス、タンス、母親の位牌程度。この後仮設住宅は防寒対策として断熱材や二重玄関などの工事がなされ、2014年2月までの3年半をこの部屋で暮らした



2011.3.12 / 佐藤晃一 撮影



2015.10.15 / 佐藤晃一 撮影



2016.10.17 / 佐藤晃一 撮影

仙台市宮城野区蒲生1丁目
震災当日、自衛隊のヘリで多くの
人々が救出された中野小学校方面
を撮影。写真の反対側には麒麟
ビール仙台工場があり、大量の商
品が流出し散乱していた。

• 仙台市宮城野区蒲生₁丁目

この写真のキャプション

震災当日、自衛隊のヘリで多くの人々が救出された中の小学校方面を撮影。写真の反対側には麒麟ビール工場があり、大量の商品が流出した

佐藤晃一氏撮影



2011.3.28 大林紅子 撮影



2015.10.12 大林紅子 撮影

石巻市中央2丁目 この先の内海橋には津波によるがれきが堆積し、立入禁止となっていたが、自己責任で歩行者や自転車は通行していた。人々は思いつく限りの方法で生活情報を共有していた。

• 石巻市中央2丁目

この写真のキャプション

この先の内海橋には津波による瓦礫が堆積し、立ち入り禁止となっていたが、自己責任で歩行者や自転車は通行していた。人々は思いつく限りの方法で生活情報を共有していた

大林紅子氏撮影



2011.3.21 / 三浦隆一 撮影



2012.4.29 / 佐藤正実 撮影



2013.9.14 / 佐藤正実 撮影

名取市鍋沼
震災から10日後、名取川河口から約2.5キロメートルの堤防から仙台東部高速道路名取ICを望む風景。津波は高速道路の橋梁構造部分を通り抜け、さらに内陸部にまで到達した。発災後の見渡す限り一面の漂流物。津波で流されてきた家や車、木で覆われていた沿岸部が、わずか3年でここまで復旧するとは予想できなかった。

• 名取市鍋沼

この写真のキャプション

震災から10日後、名取川河口から約2.5メートルの堤防から仙台東部高速道路名取ICを望む風景。津波は高速道路の橋梁部分を通り抜け、さらに内陸部にまで到達した。発災後の見渡す限り一面の漂流物。津波で流されてきた家や車、木で覆われていた沿岸部が、わずか3年でここまで復旧するとは予想できなかった。

佐藤正実氏撮影

佐藤正実氏へ のインタ ビュー調査

- 被災地の人々に必要なのは「東日本大震災の被災そのものの話」だけではなく思い出を語ることである
- コミュニティアーカイブの存在により、かつての暮らしを語り合う「場」が提供できる
- 「場」において、アイデンティティを取り戻すことができる
- これらの行動・活動が災害からのレジリエンス力につながる

震災後の荒浜 の地域コミュニ ティ

- 居住地区であった荒浜地区の沿岸部が東日本大震災後の復興計画により非居住地区になってしまった
- 非居住地区となったあとも元住民が集まり、海辺の図書館、定点観測、お茶っこ、³¹¹オモイデツアーなどの活動により新たな外部からの荒浜ファンが増えた
- これらのファンが増えたことにより元住民のシビックプライドの向上が見られた

海辺の図書館

- 荒浜地区の元住民であり、図書館業務にたずさわる庄子隆弘氏が中心となり活動しているコミュニティアーカイブである
- 荒浜地区で生きてきた人々の記録を「生きた本」とし、災害危険区域となった荒浜地区を全体を図書館に見立てて、震災後、荒浜地区のコミュニティ活動に関わった人々の体験も収集していく活動である

海辺の図書館 が関わった コミュニティ 活動 (抜粋)

2014/7/21	第2回荒浜アカデミアにて、海辺の図書館企画を発表
2015/7/11	3710みなとラボ公開座談会「海と共に生きること、学びの方法」へ登壇
2016/5/19	荒浜再生を願う会跡地利活用ワークショップ
2016/6/5	東部沿岸部土地利活用シンポジウム
2016/7/30	人物図書館 in せんだい
2016/9/3	3.11オモイデツアー@蒲生
2016/9/20	東北未来賞被災地「海辺の図書館」受賞
2016/11/10	第18回図書館総合展金剛ブースミニフォーラム 「海辺の図書館～地域再生とマイクロライブラリーの可能性」
2016/11/13	荒浜再生を願う会蘇生活動 「荒浜リボーン」里海荒浜 ロッジ落成式
2017/1/14	「未来への記憶マップを描こう」@せんだい3.11メモリアル 交流館
2017/3/11	海辺の能楽2017
2017/2/12	今宵は深沼海水浴場で星空を ～移動天文台ベガ号が荒浜にやってくる～
2017/4/1	東日本大震災と本 これまでとこれから@仙台311メモリアル 交流館企画
2017/8/8～8/31	海辺の写真展(東北工業大学一番町ロビー)
2017/11/1	只野真葛と荒浜イベント

庄子隆弘氏へ のインタ ビュー調査

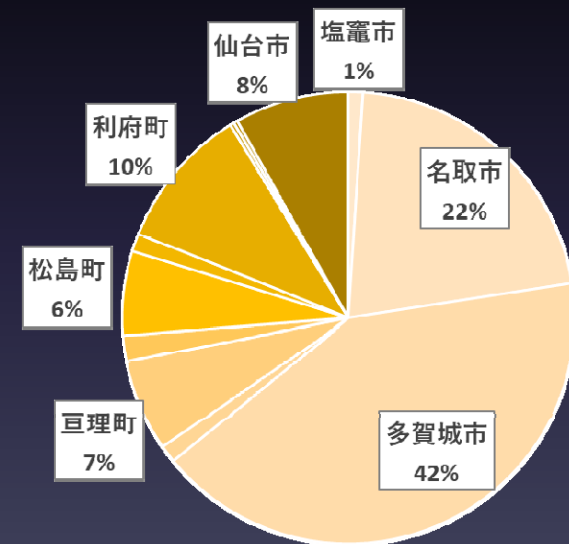
- 震災を伝承するためには、津波の恐ろしさを伝えるだけでは不十分である
- 地域の魅力を再発見し、継続して記録していくことが最も重要である
- コミュニティ活動が自然と防災意識につながる
ことが継続可能な防災意識につながる
- コミュニティアークाइブを継続させていくため
の資金調達や人員の確保が急務である

東日本大震災 アーカイブ宮 城と、荒浜の コミュニティ アーカイブの 連携状態

東日本大震災アーカイブ宮城

仙台圏全体に占めるコンテンツ数の
市町村別の割合

仙台市
8 % (4,479 件)



まとめ

- 小規模で低予算のアーカイブが継続するための一つの方策として、国や自治体が構築している災害アーカイブとの連携が考えられる
- コミュニティアーカイブの活動は、災害の伝承のみならず、地域の歴史を知ることになり、シビックプライドを高め、レジリエンス力を強める

まとめ

- コミュニティアーカイブの具体的な活用法として、荒浜地区のオモイデッアー、写真集の出版などは、成功例と言える

ご静聴ありがとうございました